

積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている 生活行動とサポートニーズに関する文献検討

安達 寛人¹⁾ 塩谷 幸祐²⁾ 田口 玲子¹⁾

1) 新潟県立看護大学 2) さいがた医療センター

要旨 積雪寒冷・豪雪地域に住む人々の生活に関連した知見から、積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動とサポートニーズについて明らかにするとともに、今後の課題について検討した。抽出された17文献について分析した結果、成人や高齢者、下肢切断者や脳卒中後遺症者などを調査対象者としており、積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響を受けている生活行動には【屋外における生活行動】【屋内における生活行動】【災害への対処行動】があった。また、サポートニーズについて言及があった5文献を分析した結果、【日常生活の営みに関するサポートニーズ】と【制度・体制に関するサポートニーズ】があった。高齢者を調査対象者とした知見が多いことや、生活の困難や負担、対処行動をとることへの困難さがあることから、今後は、積雪寒冷・豪雪地域に住む人々に対して個人が持つ障害や健康状態の程度、環境の影響を踏まえ、個別的で具体的な支援を検討し実践していくことが重要であると考えられる。

キーワード：積雪寒冷・豪雪地域、生活行動、サポートニーズ

I 研究の背景と課題

わが国の国土面積の半分以上は豪雪地帯であり、積雪により住民の生活や産業の発展が阻害されてきた。国土交通省¹⁾によると、豪雪地帯とは、豪雪地帯対策特別措置法によって指定された地域で、冬期に大量の積雪がある地域とされている。平成27年4月1日の時点において、わが国の902市町村のうち、532市町村が豪雪地帯に指定されており、さらにそのうち、201市町村が特別豪雪地帯に指定されている。

積雪寒冷・豪雪地域に関連した調査報告として、雪害による健康と生活に及ぼされる影響に関する報告²⁾や疾患の症状への影響に関する報告³⁾などがあり、健康に関する積雪・寒冷環境の影響が明らかにされている。さらに中川⁴⁾は、豪雪地帯の訪問看護は、積雪期の移動に時間がかかることやへき地では訪問看護をする機関が少ないこと、採算を度外視せざるを得ない状況があることを明らかにしており、豪雪地帯には必要なサポートが届きにくいという現状も見られる。これらのことより、積雪寒冷・豪雪地域の環境は、障害や疾患の有無などに関わらず、そこに居住する人々の日常生活や社会生活に影響を及ぼしていることが明

らかにされている。

しかし、積雪寒冷・豪雪地域に関する知見は数多く見受けられるが、人々の生活行動に焦点をあてたものは少ない。積雪寒冷・豪雪地域の環境は、冬期の行動の制限や活動の低下などに影響し、対象者の年齢や障害の有無などによって影響を受ける生活行動やサポートニーズは異なると考えられる。そのため、積雪寒冷・豪雪地域の環境で暮らす人々の生活行動に焦点をあててその実態やニーズを把握し、今後の課題を検討していくことは、その地域に居住する人々に見合った援助を検討していくための基礎資料になると考える。

II 研究目的

本研究は、これまでの積雪寒冷・豪雪地域に住む人々の生活に関連した知見から、積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響を受けている生活行動とサポートニーズについて明らかにし、今後の課題について検討することを目的とする。

III 研究方法

1. 対象文献の選定

1983年から2016年4月現在までに報告された文献を、医学中央雑誌Web版（以下、医中誌Web）を用い、キーワードを「雪国 and 生活」「豪雪 and 生活」「積雪 and 生活」「寒冷気候 and 生活」として検索した。原著論文のみとして、65件が検索された。

そのうち、豪雪地帯対策特別措置法によって指定されている「豪雪地帯」において調査が行われたことが明記されている文献または積雪量の記載があるなど豪雪地帯で調査が行われたと推定できる文献を選定した。さらに、「生活行動」と「サポートニーズ」に関して述べられているものを選定した。最終的に17文献が抽出された。

なお、本研究における「生活行動」は、日常生活行動に加え、手段的日常生活活動や、それと同義語で利用されている生活関連動作を含めるものとした。また、豪雪地帯で調査が行われたものであっても、抽出文献によっては表題に「積雪地」や「寒冷地」などの表現が用いられていること、また、積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法⁶⁾に指定されている「積雪寒冷地域」が豪雪地帯に含まれていることから、本研究では「豪雪地帯」を「積雪寒冷・豪雪地帯」と表した。

2. 分析方法

抽出された17文献を研究者間で読み込み、各文献に記載されている著者、発表年、研究目的、研究方法（対象者、データ収集方法、分析方法）、結果の概要を抽出した。

「生活行動」に関しては、抽出された17文献を分析対象とした。結果の概要から、積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響を受けている生活行動として記述されている文脈を抜き出して要約し、その生活行動に関して内容の類似しているものを小項目とした。小項目で内容の類似しているものを中項目として分類し、さらにその中項目で内容の類似しているものを大項目として分類した。「サポートニーズ」に関しては、抽出された17文献のうちサポートニーズについて言及のあった5文献を分析対象とした。5文献の中でサポートニーズとして記述されている文脈を抜き出して要約し、そのサポートニーズに関して内容の類似しているものを小項目とした。小項目で内容の類似しているものを中項目として分類し、さらにその中項目で内容の類似しているものを大項目として分類した。

IV 倫理的配慮

研究者間で対象文献を十分に読み込み、著者の意図することを正確に捉えるよう努めた。また、引用文献は著作権に配慮し、出典を明記した。

V 結果

1. 対象文献の調査対象者について

抽出された文献⁶⁾⁻²²⁾の調査対象者は、成人および高齢者、変形性股関節症人工股関節全置換術後者、高齢者、訪問看護を受けている療養者とその家族、高齢者へのサービス提供者、大腿切断者・下腿切断者、脳卒中後遺症者であり、高齢者を対象とした文献が17文献中9文献^{7-10),12),13),15)-17)}と半数以上を占めていた。また、サポートニーズに関する5文献における調査対象者は、高齢者や高齢者へのサービス提供者となっていた。

2. 積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動について

分析対象文献に記述されている生活行動の抽象度や視点・表現が異なるため内容を汲み取ることに努め、積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動の抽象度を合わせて要約し分類した（表1）。以下、大項目を【 】, 中項目を< >, 小項目を< >, 対象文献中の生活行動に関する記述の要約を「 」, 対象文献中にあった生活行動に関する記述数を（ ）で表記した。

積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響を受けている生活行動は、【屋外における生活行動】(24)、【屋内における生活行動】(5)、【災害への対処行動】(1)に分けられた。

【屋外における生活行動】では<外出の困難と外出量の減少>(11)に関する記述が最も多くあがっており、「積雪期は交通手段が少なく、不便と感じていた」といった<交通手段による外出の困難>や、冬季の積雪や身体症状の増悪により<雪による外出の制限や身体症状の増悪による外出の減少>が見られた。次いで<除雪・雪下ろし行動の困難と負担>(5)に関する記述があがっており、転倒への恐れや自力で除雪すること自体が困難であるといった<除雪の困難>や寒冷積雪環境の負担の一部としての<除雪の負担>が見られた。その他に、転倒への恐れによる<買い物の困難>や<友人宅への訪問困難>があがっていた。それらの困難や負担がある一方で、分析対象文献の調査対象者は、<他者に頼る食材の調達>や<対処行動として

の人との関わり>、<歩行の工夫>といった対処行動をとっていた。【屋内における生活行動】では、調理や洗濯などの実施率の低下があったことから<家事行動の減少>(2)といった影響があった。また、寒冷に対

して温熱や暖房を用いた<寒さへの対処の工夫>(1)を行っていたことや積雪による転倒不安のために<屋内でのリハビリテーション>を行うという対処行動が見られた。その他に「災害への備えに対する

表1 積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動の分類

大項目	中項目	小項目	対象文献中の生活行動に関する記述の要約
屋外における生活行動(24)	外出の困難と外出量の減少(11)	外出頻度の減少(3)	<ul style="list-style-type: none"> 外出頻度が冬季に減少していた 外出回数が夏より低下していた 冬季には有意に外出回数が減少していた
		交通手段による外出の困難(3)	<ul style="list-style-type: none"> 積雪期は交通手段が少なく、不便と感じていた 交通機関の不足、タクシーを使わざるを得ないことに不便さを感じていた バスに乗って1人で外出する行動が冬季に多かった
		転倒不安や気候による外出量の減少(2)	<ul style="list-style-type: none"> 凍結路面に対する転倒不安や寒冷の気候により外出が減少していた 辻[すべ]る、寒いなどの理由により外出量が減少していた
		転倒経験・不安による外出の困難(2)	<ul style="list-style-type: none"> 転倒経験・不安により外出に困難を感じていた 転倒への恐れにより散歩が困難となっていた
		雪による外出の制限や身体症状の増悪による外出の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 積雪期では雪による外出の制限や身体症状の増悪により外出が減少していた
	除雪・雪下ろし行動の困難と負担(5)	除雪の困難(3)	<ul style="list-style-type: none"> 転倒への恐れにより除雪の困難があった 自力で除雪をすることの困難さがあった 生活上の困難・不便の一つとして除雪の困難さがあった
		除雪の負担(1)	<ul style="list-style-type: none"> 路面凍結や除雪、寒さにより寒冷積雪環境を負担に感じていた
		除雪・雪下ろし行動の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 除雪・雪下ろしの行動に有意な実施率低下があった
	買い物の困難と対応(3)	買い物の困難(2)	<ul style="list-style-type: none"> 転倒への恐れにより買い物の困難があった 生活上の困難・不便の一つとして買い物の困難さがあった
		他者に頼る食材の調達(1)	<ul style="list-style-type: none"> 積雪の多い地域では食材の調達を他者が行う者が多い傾向にあった
	人との関わりの変化(3)	対処行動としての人との関わり(2)	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間の対処行動として人と交流することがなされていた 寒冷過疎地域において近隣との親密な関わりが一人暮らし高齢者の支えとなっていた
		友人宅への訪問困難(1)	<ul style="list-style-type: none"> 転倒への恐れにより生じる困難として友人宅への訪問の困難さがあった
	歩行の工夫と減少(2)	歩行の工夫(1)	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間の対処行動として、歩行を自粛や歩行の工夫により転倒予防を行っていた
		歩数の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 歩数と活動時間が冬季は少なかった
屋内における生活行動(5)	家事行動の減少(2)	調理行動の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 女性は調理行動において実施率の低下があった
		洗濯行動の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 女性は洗濯行動において実施率の低下があった
	屋内での活動の変化(1)	屋内でのリハビリテーション(1)	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間は積雪による転倒不安のために屋内でリハビリテーションを行っていた
	寒さへの対処の工夫(1)	保温・暖房の工夫(1)	<ul style="list-style-type: none"> 局所の温熱や暖房を使用した保温による寒さへの対処を行っていた
	暖房の確保への支障(1)	灯油の注入行動の減少(1)	<ul style="list-style-type: none"> 女性は灯油の注入をする行動に実施率の低下があった
災害への対処行動(1)	災害への備え行動の増加(1)	災害への備えに対する行動の増加(1)	<ul style="list-style-type: none"> 災害への備えに対する行動が冬季に高かった

表2 積雪寒冷・豪雪地域における人々のサポートニーズの分類

大項目	中項目	小項目	対象文献中のサポートニーズに関する記述の要約
日常生活の営みに 関する サポート ニーズ(32)	外出・交通手段 の支援(7)	外出・交通手段の 確保(5)	<ul style="list-style-type: none"> 療養者の受診や外出など移動支援の希望がある 足が悪くて外出できない 病院受診のための足(移動手段)がない 通院・買い物・介護予防事業への送迎を必要としている 温泉までの送迎バスの希望がある
		路面状況に関する 情報(1)	凍結路面での転倒不安がありその日の歩道路面の滑りやすさに関する情報がほしい
		交通費の補助(1)	交通費の補助の希望がある
	健康な生活への 取り組みの支援 (6)	健康相談の機会(3)	<ul style="list-style-type: none"> 介護が必要なくても気軽に相談できる窓口がほしい 保健師の健康相談会の場を求めている 相談相手としての保健師の訪問を希望がある
		健康に関する情報 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の関心が高い 健康への関心が高い
		健康増進の具体的 方法(1)	集落内で足腰を鍛える体操の企画をしてほしい
	介護への支援 (5)	在宅介護への補助 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 住宅が狭く車いす生活ができないという住宅事情がある 訪問介護の質をあげてほしい 高齢者や障害者にとって活用しづらい公共施設整備への希望がある
		介護者への支援(2)	<ul style="list-style-type: none"> 配偶者の健康上の心配がある 介護者が外出できない
	除雪への支援 (5)	除雪回数の増加(2)	<ul style="list-style-type: none"> 排雪回数をもっと多くしてほしい 除雪は年寄りには一番堪える作業であることから支援を希望している
		除雪の質の向上(2)	<ul style="list-style-type: none"> 除雪方法をもっと丁寧にしてほしい 除雪や雪下ろしに関する住環境の整備を求めている
		除雪への要望(1)	除雪場所や領域への希望がある
	人との交流の 支援(4)	対人交流の機会(4)	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らしは寂しい 相談相手を求めている 男性の集まれる場が少ない 高齢者が集える場がほしい
	緊急時の支援 (2)	緊急時の対応(2)	<ul style="list-style-type: none"> 安否確認を求めている タイムリーな支援を求めている
	買い物の支援 (2)	買い物の補助(2)	<ul style="list-style-type: none"> 食材宅配がほしい 買い物の荷物を持って歩けない
	書類の読み書き の支援(1)	書類の読み書き の補助(1)	書類を読んで書くことが困難である
制度・体制 に関する サポート ニーズ(18)	医療制度・体制 への要望(6)	往診の希望(4)	<ul style="list-style-type: none"> 医師の往診制度の希望がある 冬期間だけでも往診の体制がほしい 療養者の異常時に気軽に往診してもらいたい 訪問看護など専門家にみてもらう機会への要望がある
		地域医療機関の 存続・設置(2)	<ul style="list-style-type: none"> 遠方への受診困難のため地域医療機関を存続させてほしい ホスピスがほしい
	保健・行政への 要望(6)	町の整備への希望 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備・拡張の希望がある 駅の整備への希望がある 葬式ができる町内会館の設立を希望している ゴミの分別が複雑である
		検診項目の増加(1)	健診項目を増やしてほしい
		健康増進の機会(1)	健康教室を近くで開催してほしい
	年金生活への 要望(4)	年金生活による 経済状況の負担(4)	<ul style="list-style-type: none"> 年金減額に反対している 年金生活により経済苦がある 年金生活でやりくりするには税金、医療費が高い 保険料値上げを反対している
	介護保険制度 への要望(2)	介護保険手続きの 明確化(1)	介護保険の手続きをわかりやすくしてほしい
介護保険に関する 情報の希望(1)		介護保険に関する情報がほしい	

行動が冬季に高かった」とする【災害への対処行動】があった。

3. 積雪寒冷・豪雪地域における人々のサポートニーズについて

積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動と同様に内容を汲み取ることに努め、分析対象文献中の積雪寒冷・豪雪地域における人々のサポートニーズに関して抽象度を合わせて要約し分類した(表2)。以下、大項目を【 】, 中項目を《 》、小項目を< >、対象文献中のサポートニーズに関する記述の要約を「 」, 対象文献中にあったサポートニーズに関する記述数を()で表記した。

積雪寒冷・豪雪地域における人々のサポートニーズは、【日常生活の営みに関するサポートニーズ】(32)と【制度・体制に関するサポートニーズ】(18)に分けられた。【日常生活の営みに関するサポートニーズ】では、《外出・交通手段の支援》(7)に関する記述が最も多くあがっており、<外出・交通手段の確保>や<路面状況に関する情報>が求められていた。次いで、《健康な生活への取り組みの支援》(6)があがっており、相談の場や相談相手を希望する<健康相談の機会>や<健康に関する情報>が求められていた。さらに、在宅介護の補助や介護者への支援を求める《介護への支援》(5)や、積雪のある地域に必要とされる《除雪への支援》(5)のサポートニーズがあった。その他、「ひとり暮らしは寂しい」などから《人との交流の支援》(4)、安否確認を求める《緊急時の支援》(2)、「食料宅配がほしい」といった《買い物の支援》(2)、「書類を読んで書くことが困難である」ことから《書類の読み書きの支援》(1)のサポートニーズがあった。【制度・体制に関するサポートニーズ】では、<往診の希望>と<地域医療機関の存続・設置>から構成された《医療制度・体制への要望》(6)と、<町の整備への希望>や<健診項目の増加>などから構成された《保健・行政への要望》(6)に関する記述が最も多くあがっていた。次いで、「年金生活により経済苦がある」ことなどから《年金生活への要望》(4)が求められていた。その他、介護保険の情報や手続きがわかりにくいという意見から、《介護保険制度への要望》(2)があがっていた。

VI 考察

1. 分析対象文献の調査対象者について

今回抽出された文献では、調査対象者を高齢者と

しているものが半数以上であり、特定の障害を持つ人に焦点をあてている研究はわずかであったことに加え、サポートニーズに関して分析対象となった5文献においても高齢者と高齢者のサービス提供者を調査対象者としており、本研究で得られたサポートニーズの内容は高齢者の視点で捉えられたものであると言える。積雪寒冷・豪雪地域における高齢者の生活行動やサポートニーズは明らかにされていたが、呼吸器系疾患や精神障害、妊産褥婦など多様な人々に焦点をあてた十分な検討は行われていないと考えられる。

2. 生活行動について

《外出の困難と外出量の減少》から、積雪による転倒不安や寒冷な気候、冬季の身体症状の増悪が外出行動に影響を及ぼし、またサポートニーズとして《外出・交通手段の支援》や《買い物の支援》が求められていることから、積雪寒冷・豪雪地域の人々には、積雪により容易に外出できない状況があると言える。その状況に対して<歩行の工夫>や<他者に頼る食材の調達>、<屋内でのリハビリテーション>などがあり、積雪寒冷・豪雪地域での生活を営む中でその人たちの工夫がなされていることが窺える。その工夫の中でも<対処行動としての人との関わり>が見られたが、転倒への恐れによる<友人宅への訪問困難>やサポートニーズとしての《人との交流の支援》があり、積雪により対処行動をとること自体も困難となっている。これらのことから、積雪寒冷・豪雪地域の環境において、積雪期は気軽に外出ができず孤独感を増強させる人の存在が推測されるため、その断絶しがちな状況に対して、例えば、屋内でのリハビリを同じような状況の人々が集まって行うための支援、といった地域がまとまるような支援が必要であると考えられる。

また、転倒の恐れや除雪作業自体が困難、除雪の負担があることから《除雪・雪下ろし行動の困難と負担》があり、除雪作業の危険や身体的負担が窺える。また、除雪作業は日常生活を営む上で欠かせない作業でもあることから、精神的な負担にもなっていることも考えられる。それらの除雪の負担に対するサポートニーズとして《除雪への支援》があがっており、今後、個別の対応や行政とも連携して除雪の負担についての支援を検討することも重要である。しかし、今回高齢者を調査対象者とした文献が多かったことも踏まえると、まずは除雪行動に関してどのような人がどの

ようなニーズを持っているのかについて把握していくことが重要であると考え。

3. サポートニーズについて

中山間地域で暮らす要介護高齢者のニーズとして鈴木²⁹⁾は、介護保険制度・医療制度の理解困難や介護保険サービスの不足、往診医の不在に対するニーズを明らかにしている。本研究においても「医療制度・体制への要望」や「介護保険制度への要望」というニーズがあがり、先行研究と同様の結果が見られた。本研究のサポートニーズは高齢者のニーズでもあるため、積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響よりも高齢者の情報へのアクセスの困難さやサービス内容の理解への困難さがあるのではないかと考えられる。

《保健・行政への要望》における「道路の整備・拡張の希望」に関しては、積雪や凍結による道路の損壊・道幅の減少がありその影響によるものであることが推測され、また、《年金生活への要望》における「年金生活により経済苦がある」や《介護への支援》における「配偶者の健康上の心配」、「介護者が外出できない」に関しては、生活行動において「交通手段による外出の困難」が見られたように積雪の影響により移動・交通に出費がかかるといった影響があると考えられる。しかし、《保健・行政への要望》における「葬式ができる町内会館の設立希望」や《書類の読み書きの支援》、《介護への支援》における「住宅が狭いという事情」や「訪問介護の質の向上に対する希望」については、個別的なサポートニーズであり、積雪や寒冷に対する生活の工夫やニーズとして捉えにくく、直接的な積雪の影響との関連はないと思われる。さらに、《健康な生活への取り組みの支援》に関しても、健康相談の場や情報が求められており調査対象者の健康への意識が高いことが窺え、これは積雪や寒冷の影響よりも本研究で見られたニーズが高齢者の視点で捉えられたものであるということが関連していると考えられる。これらのことから、積雪寒冷・豪雪地域の環境であっても、夏には積雪は見られず山間部や平野部と条件は同じであり、積雪期のニーズと非積雪期のニーズが混在していることが窺えた。加えて個別的な支援を求めている人も存在しているため、支援する側は環境の影響を踏まえながらも個別的で具体的な支援を行っていく必要があると考えられる。

なお、サポートニーズにおける記述の要約は、積雪寒冷・豪雪地域において調査が行われた文献に記述さ

れていたものであるが、一つ一つの記述の要約について積雪寒冷・豪雪地域の環境に対する具体的な関連の有無は各文献に詳細には記述されておらず、考察しきれない部分もあった。

VII 研究の限界

本研究では対象論文を和雑誌に限定し医中誌 Web に検索を絞ったため、結果は限られた文献レビューとなっている。今後は、他のデータベースを含めて検索範囲を拡大していくことが必要であると考え。

VIII 結論

1. 積雪寒冷・豪雪地域の環境の影響を受けている生活行動には【屋外における生活行動】【屋内における生活行動】【災害への対処行動】があった。
2. 積雪寒冷・豪雪地域のサポートニーズには、【日常生活の営みに関するサポートニーズ】と【制度・体制に関するサポートニーズ】があった。
3. 高齢者を調査対象者とした知見が多いことや、生活の困難や負担、対処行動をとることへの困難さがあることから、今後は、積雪寒冷・豪雪地域に住む人々に対して個人が持つ障害や健康状態の程度、環境の影響を踏まえ、個別的で具体的な支援を検討し実践していくことが重要であると考え。

引用文献

- 1)国土交通省：豪雪地帯道府県別市町村数，国土交通省，2016，<http://www.mlit.go.jp/common/001085674.pdf>(検索日 2016.6.1)
- 2)酒井明子，渡邊智恵，久保恭子，他：『平成18年豪雪』に関する初動調査報告，日本災害看護学会誌，9(2)，15-24，2007。
- 3)長内忍，高橋啓，小笠寿之，他：寒冷地に居住する気管支喘息患者の冬期の症状に関する検討，アレルギー，53(5)，508-514，2004。
- 4)中川泉：へき地・離島の看護と保健活動 ルーラル・リモートエリアにおける訪問看護と保健師の活動 (4) 豪雪地帯の訪問看護と保健師活動，保健の科学，48(9)，671-674，2006。
- 5)国土交通省：積雪寒冷特別地域における道路交通の確保について，2009，http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000064.html(検索日 2016.10.18)
- 6)眞壁幸子，牧本清子，吉川智子，他：人工股関節全

- 置換術後患者の積雪寒冷地における問題と対処方法～術後1年以上経過した外来患者の面接調査から～, 秋田大学保健学専攻紀要, 21(1), 55-63, 2013.
- 7) Hideki Suzuki, Hitoshi Tsushima : Current status ambulance transport due to falls on snow-covered and icy streets and awareness of the elderly in Sapporo city, 医学と生物学, 157(3), 269-276, 2013.
- 8) 飯田智恵 : 豪雪地域における高齢者の身体活動量の季節変動, The Kitakantou Medical Journal, 61(3), 395-403, 2011.
- 9) 鳥谷めぐみ, 高野良子, 長谷川真澄, 他 : 北海道の高齢者における冬季の食生活の実態と課題, 日本ルーラルナーシング学会誌, 4, 1-7, 2009.
- 10) 黄京性, 岡部和夫 : 寒冷過疎地域における一人暮らし高齢者の生活特徴, 名寄市立大学紀要, 3, 69-78, 2009.
- 11) 酒井禎子, 加藤光實, 直成洋子, 他 : 豪雪地域の在宅療養者とその家族の療養生活の特徴, 日本在宅ケア学会誌, 13(1), 63-70, 2009.
- 12) 菅原峰子, 北川公子, 籠玲子, 他 : 豪雪地帯に暮らす後期高齢者の健康と生活の営みに関する研究, 保健師ジャーナル, 64(11), 1030-1036, 2008.
- 13) 藤川あや, 飯吉令枝, 平澤則子, 他 : 過疎地域における高齢者の生活の自立において困難なことと地域支えあいの実態, 日本看護学会論文集地域看護, 39, 119-121, 2008.
- 14) 小林恵子, 平澤則子, 飯吉令枝, 他 : 農村地域に暮らす高齢者の生活ニーズとソーシャル・サポートの検討 サービス提供者のフォーカス・グループインタビューから, 保健師ジャーナル, 64(3), 258-263, 2008.
- 15) 松浪容子, 古瀬みどり : 過疎・高齢化が進む A 町の高齢者サロンに参加する地域高齢者の健康に対する意識と介護保険に対する認識・ニーズ, 日本看護学会論文集地域看護, 38, 165-167, 2007.
- 16) 飯吉令枝, 平澤則子, 斎藤智子, 他 : 山間豪雪地における高齢者の生活行動とサポート・ニーズおよび健康関連 QOL の季節比較, 日本在宅ケア学会誌, 10(2), 59-66, 2007.
- 17) 羽原美奈子, 北村久美子 : 積雪寒冷地に居住する在宅高齢者の保健・医療・福祉サービスへの要望, 看護総合科学研究会誌, 9(1), 33-41, 2006.
- 18) 吉田礼維子, 白井英子 : 寒冷積雪の生活環境が成人・高齢者の活動と心身の健康・保健行動に及ぼす影響, 天使大学紀要, 6, 1-10, 2006.
- 19) 和泉浩史, 伊藤俊一, 鈴木英樹 : 道内下肢切断者の冬期生活と諸問題, 北海道理学療法士会誌, 6, 19-23, 1989.
- 20) 田中千歳 : 積雪寒冷地における在宅障害者の移動と生活空間に関する調査報告—北海道における在宅脳血管障害者の居住実態を事例として—, 北海道理学療法士会誌, 12, 47-55, 1995.
- 21) 岡本五十雄, 堀口信, 永倉靖久 : 脳卒中患者の「屋外歩行自立」の意味の季節的見直し, 総合リハビリテーション, 19(4), 459-461, 1991.
- 22) 石川玲, 香川幸次郎, 伊藤和夫, 他 : 冬期間における在宅脳卒中後遺症者の生活実態, 理学療法学, 15(5), 433-438, 1988.
- 23) 鈴木裕介 : 中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに関する研究, 社会福祉学, 56(3), 58-73, 2015.

A literature review on people's daily activities and support needs in areas of heavy snowfall

Hiroto Adachi¹⁾ Kousuke Shiotani²⁾ Reiko Taguchi¹⁾

1) Niigata College of Nursing

2) NHO(National Hospital Organization) Saigata Medical Center

Abstract

The purpose of this study was to clarify people's daily activities and support needs in areas of heavy snowfall. Seventeen studies about people living in areas of heavy snowfall were chosen and analyzed. As a result, the participants of these studies were adults, elderly people, persons that had undergone above the knee or below the knee amputation, and persons that had suffered strokes. The following daily activities were found to be affected by living in areas of heavy snowfall: [daily outdoor activities] [daily indoor activities] [natural disaster preparedness]. Five studies about people's support needs in areas of heavy snowfall were analyzed. These support needs were found to be affected by living in areas of heavy snowfall: [support needs associated with working in everyday life] and [support needs for a community medical care welfare system]. Many elderly people were surveyed, and the participants of these studies found it difficult to cope with inconveniences and burdens in life. The results of this study suggest that it is important to examine individuals, as well as the concrete support and practices for people living in areas of heavy snowfall while considering the degree of obstacles and their health condition.

Keywords: areas of heavy snowfall, daily activities, support needs